

第621号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2020年12月16日
発行責任者 喬木村公民館長 徹
市 瀬 編集責任者 公民館編集部長 志
仲 田 久 印刷 龍共印刷株式会社

第一回平和学習会
沖縄スパイ戦史を上映して

コロナ禍の中この上映会が今年度の第一回の学習会になりました。参加して下さった皆さん本当にありがとうございました。

あの時沖繩で何が起きていたんだろう。沖繩戦とは現在に生きる私たちにどうして何であるのか。そういう視点でこの映画を観たなら多くのことを考えさせられるに違いないと思えました。

「護郷隊」と呼ばれる十代の少年達からなる部隊が組織されます。彼らが担ったのは、闇夜に紛れて敵陣地に破壊行為をしかけるなどのゲリラ戦でした。彼らを訓練したのは秘密戦に関する教育や訓練を受け全国に配置された陸軍中野学校に若き将校でした。映画は

う目的も日本軍の資料から明かされていきます。

マリアのはびこる西表島に強制移住させられた波照間の人たちのことも取り上げられます。ここにも陸軍中野学校出身の将校が一人、小学校の教師として送り込まれ、住民に溶け込んで暮らしていたある日、軍刀を抜き、軍命を強行します。生活の場を追われ、マ



ラリアで多くの命が失われました。沖縄では、このように敵弾ではなく日本軍の作戦の犠牲になった何千人もの人たちがいたことは知らされなければならぬ事実です。全ての家族をマリアで失った少女がいました。彼女の沖縄戦は終わっているのだろうか。沖縄戦を終わらすとはどういうことだろうか。また、住民の命を守らない国とは何なんだろうか。これらはすべて過去のものとなっているだろうか。私たちは問われているように思います。

掠鳩十ものがたり 67

『掠鳩十全集』掲載作品

掠鳩十顕彰会 久保田 毅

掠鳩十全集十三

「チビザル兄弟」

昭和四十四年

その二「かなしいわかれ」

「・・・野犬は、弟のチビザルのとじこめられていた。箱ワナをみつけた。・・・そして、まわりをとりかこみました。・・・弟のチビザルは、箱ワナの

中で、野犬をにらみつけてシャー！シャー！と叫び声をあげます。野犬は、そんなおどかしぐらいは何でもありません。白いキバをむいて、チビザルのほうにじりよっていきます。

そして、箱ワナめがけてとびかかります。チビザルをすさまじく引き出そうとしているのです。

「チビザル兄弟はたいそうりこうなサルでした。・・・弟は、箱ワナのまん中に小さくなっていれば助かるといふことをみぬいていました。・・・兄のチビザルは、弟を助けようと思いましたが、野犬は、しげみの方に行ってしまうました。・・・」



た山の中で、落ち葉をふむ音が近づいてきます。鉄砲を肩にかけ、獵犬をつれた狩人です。

「とうとう、かかったな」狩人はにたつとわらいま

した。太い木の枝をひろりと・・・箱ワナの中をひっかきまわりました。チビザルをつかんで、いけどりにするつもりです。

「狩人は、弟のチビザルをリユックサクにおしこむと、肩にひっかけて山を下り始めました。

弟のチビザルは、リユックサクの中で、かなしげななき声をたてながら、運ばれていきました。兄のチビザルは、そっと狩人のあとをつけていきます。・・・山をくだったところのわらぶきの家に入って行きました。

「狩人は、弟のチビザルをリユックサクにおしこむと、肩にひっかけて山を下り始めました。

弟のチビザルは、リユックサクの中で、かなしげななき声をたてながら、運ばれていきました。兄のチビザルは、そっと狩人のあとをつけていきます。・・・山をくだったところのわらぶきの家に入って行きました。

令和2年度 喬木村総合文化祭 開かれる

がこつこつと作り上げた逸品で、見学にきた皆さんは、一つ一つ丁寧に見入って感動していました。歴史民俗資料館では特別企画「地域にゆかりの画家展」として、長谷川石峯を始めとしたこの地域にゆかりの画家の作品が展示され、普段見られない絵画が展示されました。資料館に初めて入る方も多数おり、中には昭和前期の佇まいを思い出して感動される方もいました。



昨年まで交流センター前に設置された芸術大会のステージは、いちごチャンネルによる「躍動ムービー」として村内に放送されました。常連のグループの発表に加え、スポーツクラブやダンスクラブも加わって、十九団体の動画が放送されました。

密閉、密集、密接を避ける工夫により、文化祭が開催することができ、村民の皆さんの一年間の成果が発表されました。

PR動画「躍動ムービー」
十一月七日(土)
十一月十三日(金)
十一月十五日(日)
作品展示
十一月十日(火)



あの時

日本シリーズはソフトバンクが優勝、四連覇を果たした。その強さの秘密は、早くから三軍制を導入して選手を競わせ、計画的に選手を育てているからだと言ふ。ソフトバンクはもちろん、日本のエースに成長した千賀投手、リードと強肩が売りのWBC日本代表、甲斐捕手、俊足好守の周東内野手、皆、育成ドラフトで入団し、三軍で力を付けて一軍に上がってきた選手だ。私は、「巨人、大鵬、卵焼き」世代で、子どもの頃からの巨人ファンだが、ブランド力と資金力にものを言わせ、実績のある好選手をFAで集め、日本一を勝ち取って来た巨人のやり方が通用しなくなったと言わざるを得ない。Jリーグでは川崎フロンターレが四ゲームを残して優勝を決めた。フロンターレは生え抜き選手が多く、地道な選手強化を積み上げている。今シーズンで引退を表明した元日本代表の中村憲剛選手は、高卒でテスト入団、フロンターレ一筋に二十二年間プレーした。東久留米高校時代は無名。後に日本代表で活躍するMFに成長したが、育成を大事にするフロンターレの経営方針が中村選手にとってよかったと言える。企業も行政も費用対効果、短期間で結果を出すことを求めている。しかし、大事なものは将来を見据えた地道な人材育成だ。私は、将来への投資を計画的に実行していくことが、安定した未来を築く王道だと思っている。(館長)

第33回 椋鳩十夕やけ祭

コロナ禍の中の椋鳩十夕やけ祭

椋鳩十記念館・図書館長 菅 沼 利 光

平素より、椋鳩十記念館・記念図書館に心を寄せていただき、ご支援いただきまことに、衷心より御礼申し上げます。

さて、「第三十三回椋鳩十夕やけ祭」ですが、令和二年十一月二十二日(日)に行う予定で準備して

しました。しかし、新型コロナウイルス感染症及び、感染予防をふまえ、誠に残念ですが、椋鳩十賞読書感想文コンクールの実施、表彰を行うことで、「夕やけ祭」に換えることに決まりました。

また、予定していた絵本作家 宮西達也先生の記念講演会も、来年度に延期いたしました。

今年度の椋鳩十賞読書感想文コンクールは、応募作品が四八九点。二十一名の読書感想文選考委員による一次審査、二次審査を経て、正副選考委員長の最終審査により、各賞を決定いたしました。

椋鳩十賞読書感想文コンクールの「椋鳩十賞」「優秀賞」の賞状・副賞の授与につきましては、例年行っていた「夕やけ祭」での授与を取りやめ、近隣の学校には、市瀬直史喬木村長が直接うかがい、授与いたしました。また、遠隔地の学校につきましては、賞状・副賞を受賞者の在籍学校に郵送し、当該校の校長先生

にお願ひして、授与していただきました。

今年度のコンクールの特徴は、飯田・下伊那の学校の応募が少なかつたかわりに、他県、他郡からの応募が増えたことです。遠くは、鹿児島県・福岡県・愛知県、岐阜県から。県内では、長野市、松本市、上田市、安曇野市、東御市、駒ヶ根市など、二十七の小・中学校から応募がありました。ありがたく、うれしいことでした。

コロナ禍でのステイ・ホームの影響もあると思いますが、心も、体も、閉塞してしまつたような気分が「あのとき」だつたから

戻りますが、帰るときになつても動いていいというお許しがあつません。そのままカヤは一人精米所に取り残されてしまいます。

ガタガタと大きな音でうるさい精米所に一人で居座るなんて、本当にこわかつたと思います。もしほくがこの場面にそうぐうしたらこわくてすぐに適当な場所

にげてしまいます。でもカヤは、お父さんの言いつけを守つて一晩中ずつと動かさず、この状況を乗り越える勇氣を見せました。ほくには、傷を負いながら自分のつとめをはたすカヤの姿が、とてもかっこよく、かがやいて見えました。きつとカヤにとつてお父さんの言いつけは絶対で、必ず守るといふ強い氣持ちがあつ

たのだと思います。そして、お父さんの言いつけだつたからこそ、本当の勇氣を態度で示したのだと感じました。

ほくは、何事にもおそれず強い氣持ちで立ち向かうことだけが勇氣だと思つていました。でもカヤの姿から、時には立ち向かわないという選択をすることもまた勇氣なのかなと氣づきました。汽笛の音に危険を感じてにげるのも勇氣だし、自分よりも何倍も大きい犬とけんかをしないのも勇氣なのだと思います。そして、お父さんだけはこのカヤのかくれた勇氣をわかつていました。だから昭義くんは「カヤはカヤなりに、正しく見てやらなければいけない。」と言つたのだと思

います。精米所の事件で、昭義くんはカヤのかくれた勇氣を知ることができてよかつたです。ほくにはほくなりの、相

「愛犬カヤ」 理論社

福岡教育大学附属久留米小学校 四年

横田 和樹

椋鳩十賞

「家族のように仲間を大切にすること」

「モモちゃんとかね」 理論社

喬木村立喬木第二小学校 五年

塩澤 莉音

椋鳩十賞

この物語を読んで、私はとてもおどろき、そして感動した。その理由は、モモちゃんがかうのネコとは全然ちがうところだ。モモちゃん、あかねにとってもなついていてあかねのことが大好きで、人間くさいところがあるが、一方で仲間の六匹のネコへの思いやりにあふれているからだ。

この物語の主人公のモモちゃんは、鹿児島島の波止場でオランダの水兵からもらったネコだ。生後四か月からあかねはモモちゃんといつしよに育つた。モモにとつては、あかねちゃんといつしよに過ごしていつしよの布団でねることが、

私には、特に三つのが心に残つた。その一つ目は、モモがあかねがいなくて眠れないということだ。あかねがいなかった三日間は、ガオーと、一晩中変な声で鳴き続け、しょんぼりしゃがみこんでいたけれど、あかねが帰ってきたとたん、大喜びで一目散に玄関に走つていつた。その様子から、モモは本当にあか

な、早く帰つてきてくれました。それに、すばやくうごくこともできません。じねずみは小さいのに、生きるちえをたくさんもつていてびつくりしました。

へびが近づいて、ねずみのお母さんがはねとばされたとき、ほくはもうだめだと思つた。でも、七日たつたとき、またじねずみの親子があらわれて、「ああ、よかつた。」

「おしりにくつつくなんて、おかしい。」と、ほくがいつたら、おねえちゃんが、「そのほうがあんなにいいよ。」と、教えてくれました。たしかに、家ごといつしよにいるほうが、子どももあつた。家ごとみんなですごすことができます。

ほくはまだ子どもだけ、いつか大人になつたら、じねずみのお母さんみたいに、ちえがあつて、強い人になりたいです。そして、家ごと大切にしたいです。

「母と子の愛情」仲間を守るリーダーの毅然とした姿「動物と人間の心の通じ合い」「宿命の対決」等が、私たちの心をうち、他県、他郡の応募が増えたのだらうと思つます。

来年は、コロナ禍が落ち着き、例年どおり「椋鳩十夕やけ祭」が行われますよう、祈るばかりです。

今年度の応募作品も、例年同様、力作ばかりでした。応募された皆さんのおかげで、作品の質の向上と共に、内容の濃いコンクールになりました。感想文を応募された児童・生徒のみなさん、そして、コンクール実施に当たり、様々にお世話になつた皆様に、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

たのだと思つます。そして、お父さんの言いつけだつたからこそ、本当の勇氣を態度で示したのだと感じました。

ほくは、何事にもおそれず強い氣持ちで立ち向かうことだけが勇氣だと思つていました。でもカヤの姿から、時には立ち向かわないという選択をすることもまた勇氣なのかなと氣づきました。汽笛の音に危険を感じてにげるのも勇氣だし、自分よりも何倍も大きい犬とけんかをしないのも勇氣なのだと思います。そして、お父さんだけはこのカヤのかくれた勇氣をわかつていました。だから昭義くんは「カヤはカヤなりに、正しく見てやらなければいけない。」と言つたのだと思

います。精米所の事件で、昭義くんはカヤのかくれた勇氣を知ることができてよかつたです。ほくにはほくなりの、相

手には相手なりの勇氣があります。ほくもカヤのように自分なりの勇氣を見つけていきたいと思つます。

手には相手なりの勇氣があります。ほくもカヤのように自分なりの勇氣を見つけていきたいと思つます。

手には相手なりの勇氣があります。ほくもカヤのように自分なりの勇氣を見つけていきたいと思つます。

手には相手なりの勇氣があります。ほくもカヤのように自分なりの勇氣を見つけていきたいと思つます。

手には相手なりの勇氣があります。ほくもカヤのように自分なりの勇氣を見つけていきたいと思つます。

手には相手なりの勇氣があります。ほくもカヤのように自分なりの勇氣を見つけていきたいと思つます。

手には相手なりの勇氣があります。ほくもカヤのように自分なりの勇氣を見つけていきたいと思つます。

手には相手なりの勇氣があります。ほくもカヤのように自分なりの勇氣を見つけていきたいと思つます。

手には相手なりの勇氣があります。ほくもカヤのように自分なりの勇氣を見つけていきたいと思つます。

手には相手なりの勇氣があります。ほくもカヤのように自分なりの勇氣を見つけていきたいと思つます。



「小さなお母さんの大きなちえ」 「じねずみの親子」 理論社

福岡県小郡市立のぞみ丘小学校 二年

春山 こうしろう

椋鳩十賞

「家族のように仲間を大切にすること」

「モモちゃんとかね」 理論社

喬木村立喬木第二小学校 五年

塩澤 莉音

椋鳩十賞

この物語を読んで、私はとてもおどろき、そして感動した。その理由は、モモちゃんがかうのネコとは全然ちがうところだ。モモちゃん、あかねにとってもなついていてあかねのことが大好きで、人間くさいところがあるが、一方で仲間の六匹のネコへの思いやりにあふれているからだ。

この物語の主人公のモモちゃんは、鹿児島島の波止場でオランダの水兵からもらったネコだ。生後四か月からあかねはモモちゃんといつしよに育つた。モモにとつては、あかねちゃんといつしよに過ごしていつしよの布団でねることが、

私には、特に三つのが心に残つた。その一つ目は、モモがあかねがいなくて眠れないということだ。あかねがいなかった三日間は、ガオーと、一晩中変な声で鳴き続け、しょんぼりしゃがみこんでいたけれど、あかねが帰ってきたとたん、大喜びで一目散に玄関に走つていつた。その様子から、モモは本当にあか

な、早く帰つてきてくれました。それに、すばやくうごくこともできません。じねずみは小さいのに、生きるちえをたくさんもつていてびつくりしました。

へびが近づいて、ねずみのお母さんがはねとばされたとき、ほくはもうだめだと思つた。でも、七日たつたとき、またじねずみの親子があらわれて、「ああ、よかつた。」

「おしりにくつつくなんて、おかしい。」と、ほくがいつたら、おねえちゃんが、「そのほうがあんなにいいよ。」と、教えてくれました。たしかに、家ごといつしよにいるほうが、子どももあつた。家ごとみんなですごすことができます。

ほくはまだ子どもだけ、いつか大人になつたら、じねずみのお母さんみたいに、ちえがあつて、強い人になりたいです。そして、家ごと大切にしたいです。

ねのことが大好きなのだ
あと感じた。人間の親子が
いつでもいっしょにねてい
るように、モモにとつてあ
かねは家族だと感じていた
んじゃないかと思った。

次に私が心に残ったこと
は、モモの仲間への優しさ
である。仲間といっしょに
ご飯を食べるとき、いつで
も仲間に先に食べさせ、自
分は残り物を食べていた。
また、出産のため動けない
仲間に魚を届けてやった。
自分のことは後回しにして
仲間を大切にしているの
は、多分モモの親心がそう

椋鳩十賞



サル達や三吉の心を動かしたものは
「チビザル兄弟」ポプラ社
高森町立高森中学校 一年
松下郁果

幼いころに母親を亡くし
た兄弟は、群れの中で
二匹助け合って生きてい
た。好奇心が盛んで、行
動力にあふれたチビザル兄
弟は、仲間からの意地悪に
も負けず、サル仲間や人
間に救われ、たくましく生
きていく。チビザル兄弟
が、周りの仲間や人間の心
を動かしたものはいったい
何だったのか。

チビザル兄弟に意地悪し
ていたサル達が、手の平を
返すように兄弟に近づき、
兄弟を仲間として認めたの
は、チビザル兄弟が群れの
危機を救ったからだ。群れ
が野犬に取り囲まれた時
ただ一匹奮闘するボスザル
を救助したのだ。チビザル
兄弟をそんな危険に立ち向
かわせたものは、何だった
のだろうか。

「一番に残ったのは、モモ
の死ぬ場面だ。自分の死期
を感じ取って二階には上
がり、あかねのうでの中で、
あかねの指をくわえながら
死んでしまう。もう動けな
くなっていたのに、考えられ
ない力をふりしぼっては上
がったのは、そうまでして
最後にあかねに会いたかつた
からにちがいない。人間と動
物の間にもこんなに強い愛情
が生まれることを知り、私
は感動した。
人間とネコは、ちがう生
き物だ。しかし、いっしょ

に生活する中で、おたが
にきずなを深めたり、分か
り合える間がらになれると
いうことを、この本から学
んだ。モモと六匹の仲間の
ネコたちは血のつながった
家族だが、モモにとつてあ
かねは、それ以上に心のつ
ながった家族だったんだと
しみじみ思った。私のうち
で飼っているネコも、見方
を変えたらモモちゃんと同
じようなところも見つけら
れるかもしれない。付き合
い方を見直して、私も家の
ネコと新しいきずなを作っ
ていきたい。

「おおかさんはつよい
「じねずみの親子」 理論社
信州大学附属松本小学校 一年
たにもと けんじ

「おおかさんはつよい」
「じねずみの親子」
信州大学附属松本小学校 一年
たにもと けんじ

「八郎の思い」
「やせ牛物語」 小峰書房
喬木村立喬木第一小学校 六年
近藤紫矢

令和2年度
「第33回 椋鳩十賞読書感想文コンクール」
入賞者一覧

椋鳩十賞

部門	氏名	学校名・学年	感想文タイトル
小学校1・2年の部	春山航士朗	福岡県小郡市のぞみが丘小学校 2年	小さなお母さんの大きなちえ
小学校3・4年の部	横田 和樹	福岡教育大学附属久留米小学校 4年	かくれた勇氣
小学校5・6年の部	塩澤 莉音	喬木村立喬木第二小学校 5年	家族のように仲間を大切にすること
中学校の部	松下 郁果	高森町立高森中学校 1年	サル達や三吉の心を動かしたものは

優秀賞

部門	氏名	学校名・学年	感想文タイトル
小学校1・2年の部	谷本 健治	信州大学附属松本小学校 1年	おおかさんはつよい
小学校3・4年の部	三原 豪	信州大学附属長野小学校 3年	「アルプスのクマ」を読んで
小学校5・6年の部	近藤 紫矢	喬木村立喬木第一小学校 6年	八郎の思い
中学校の部	羽生 彩華	喬木村立喬木中学校 2年	三吉からの贈り物

「おおかさんはつよい」
「じねずみの親子」
信州大学附属松本小学校 一年
たにもと けんじ

「八郎の思い」
「やせ牛物語」 小峰書房
喬木村立喬木第一小学校 六年
近藤紫矢



喬木第一小学校で表彰を受けた近藤さん

優秀賞の三原 豪さん、羽生 彩華さんの作品は
次号以降に掲載します。

村の重大ニュース

七月集中豪雨各所で被害

六月三十日から活発化した梅雨前線の影響により、長野県内では南部を中心に大雨が降り続けました。特に七月九日に降った大雨で村内では大規模な土砂崩落が発生し、被害は約一〇〇箇所にも及びました。九十九谷森林公園は、土砂によって通路が寸断され、くりん草園全体に甚大な被害を及ぼしました。また、寺ノ前では、村道一号线が二度の土砂崩落。十二日未明には県道大島阿島線が、加々須地区で高さ六十m幅八十mにわたってのり面が崩落、大島地区六十六人が孤立してしまいました。



寺の前 災害時の様子

新型コロナウイルス対応 自宅で学習する子どもたち

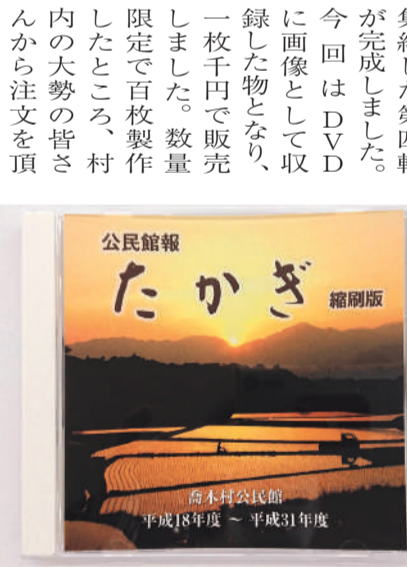
新年度を迎えて、児童・生徒はそれぞれの新しい環境での新学期の生活が始まった。本来であれば、新しい学びや遊びを同級生や沢山の友達と一緒にするところを楽しみにしていたのだが、今年の様子は違ったものとなった。新型コロナウイルス感染予防のため、自宅での学習を余儀なくされた。ICT教育に早くから取り組んできた当村では、タブレット端末を使用した自宅学習も取り入れられた。依然として終息は見られず、一刻も早く以前の生活を取り戻せることを願うばかりである。



タブレット端末で自宅学習

公民館報第四輯が完成しました

公民館報の平成十八年十月発行第四百五十一号から平成三十一年三月発行第六百合までを集約した第四輯が完成しました。今回はDVDに画像として収録した物となり、一枚千円で販売しました。数量限定で百枚製作したところ、村内の大勢の皆さんから注文を頂



喬木俳句会 霜月句会詠草

霜柱踏めば懐かし母の声
初霜やハンドル握る出勤時
山々を温もり包む霧の海
霜の朝白化粧の野菜たち
蜘蛛の囀のたゆとふ先に獲物待つ
満天星の身を焦がす如深き紅
群青の身に沁み入りぬ秋の空
里の味母浮かびくる栗御飯

宮島 高枝
筒井 政美
西元くにこ
市橋 ヨリ

横文字のキッズ爽やか育ちゆく
張り替へて和む明るさ白障子
赤とんぼ翅光り合ふ野菜畑
かりん風呂湯気に明るき母の声

田中 君子
村山たか子

無人駅コスモス揺るる紙コップ
澄み渡る空へ再び金木犀
友眠る十一月の山の影
木枯しや重ね合ふ手の優しくて

秦 恭子
松葉 孝子

秋茜光り綾なす入り日かな
石白に落葉織りなす絵の如く
赤い羽根胸高き歩の杖一步
独り居の自由不自由綿の虫

原 美恵
吉川てる子

楽遊塾のクリスマスリース作り

晩秋とはいえ、暖かな日ざしの降り注ぐ、十一月二十九日(日)の午後、公民館楽遊塾第四講座「クリスマスリースづくり」が行われました。講師にお迎えしたのは、加々須地区手しごとサークル「縁楽」の皆さんです。縁楽の皆さんによる、名の由来は「縁」しく活動をして皆と「縁」を結ぶということからきていて、活動は三年目、普段は、主につる

え、暖かな日ざしの降り注ぐ、十一月二十九日(日)の午後、公民館楽遊塾第四講座「クリスマスリースづくり」が行われました。講師にお迎えしたのは、加々須地区手しごとサークル「縁楽」の皆さんです。縁楽の皆さんによる、名の由来は「縁」しく活動をして皆と「縁」を結ぶということからきていて、活動は三年目、普段は、主につる



オリジナルのクリスマスリースができました

今年度の新型コロナウイルスの影響で例年のような活動ができず、今回が初めての事になりました。今年度の紅葉はいつもの年よりもきれいだ。新型コロナウイルスの中、近場の紅葉巡りがゆっくりとでき

下條村の新井展望台。売木村のやまなみ広場。四百十八号線が通行止めの為、おきよめの湯から普段なら十五分で行ける所を、一時間かけて廻った天龍村。その川沿いの紅葉は一番目に飛び込んできた。そして久しぶりに天竜峡龍角峯回りも散策した。「龍角峯」どこにあるんだらう」と一生懸命探しているご夫婦が印象的だった。飯田のこんなに素晴らしい景色を大切にしていきたいと思う。

講師の先生にアドバイスをいただき、自分だけのオリジナルリースが出来あがりました。生の葉が枯れてきたら、かざりをお正月用に替えると、お正月リースになるそうです。とても楽しく充実した時間を過ごす事ができました。

楽遊塾になりました。先の見えない社会情勢ですが、皆様、一層の感染予防をし、体調に気を付けてお過ごし下さい。

編集後記